

単元名

調べて考えたことを伝えよう「食文化」のレポート

本単元で育成する資質・能力

自律的活動能力・コミュニケーション能力

■指導と評価の構想

(1) 単元について (生徒観・単元観・指導観)

学習前の子ども

(資質・能力面) *A・D:本校で目指す資質・能力分類

A 自律的活動能力 (主体性・実践力・チャレンジ精神)

自分で文章を読み取ったり、自分の言葉で表現したりすることが苦手で、新しいことや難しいことにチャレンジしようとする生徒が目立つ。

D コミュニケーション能力 (協調性・柔軟性・交渉力)

仲間同士の会話はできるが、話し合いや意見の交換は苦手である。今までの経験が少ないためか、他の人の意見を聞いて自分のものの見方・考え方を広げることも難しい。

国語への関心・意欲・態度

自分の意見を表現することが苦手で、形に当てはめて書くことができるが、自分で構成を考え、項目を立てることは難しい。

書くこと

自分の意見をもち、自分の言葉で表現することが苦手である。「基礎・基本」定着状況調査タイプⅡの通過率では、「目的に応じた引用」45.8%、「根拠に基づいた文章の記述」37.5%で、必要な情報の引用や、何を根拠とすればよいのか分からない生徒も多い。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

相手や目的に応じて文章の形態や構成を考えなければならないということが理解しているが、どのような違いがあり、どのように変えればよいかについて自分で考えるまでに至っていない。

学習後の子ども(目標)

(資質・能力面) *A・D:本校で目指す資質・能力分類

A 自律的活動能力 (主体性・積極性・チャレンジ精神)

自分の言葉で表現したレポートについて、アドバイスをもらうことで、レポート完成への自信となり表現することに意欲をもつ。また、自分のアドバイスにより、相手がレポートの完成に役立つという実感をもつことが、次への実践力に繋がる。

D コミュニケーション能力 (協調性・柔軟性・交渉力)

お互いに話し合ったり、アドバイスし合うことで、自分の考えを広げたり、深めたりすることができる。また、他の生徒のレポートを読むことで学べることを体験させ、今後の学習に生かす。

国語への関心・意欲・態度

茶道や和菓子のレポートについて、ふさわしいテーマを立ててまとめる学習に関心を持ち、意欲的に書こうとする。

書くこと

- ・ 書いた文章をお互いに読み合い、材料の活用の仕方など助言し合うことで自分の考えをまとめることができる。
- ・ 1年生で学習した「構成を考えて書こう」を発展させ、幅広い資料から情報を収集し、より客観性の高い事実や自分の考えが明確に伝わるように構成を工夫することができる。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

相手や目的に応じて、レポートの形式や構成の展開に違いがあることを理解することができる。

〈学習材について〉

- 自分の興味があることを基に調べ、その情報を整理してまとめ、考察も入れながらレポートの形としてまとめることは、これからも多く経験する活動であり、その基礎を学ぶにはよい教材であると考えられる。また、小学生に説明するという活動を実行の場面に入れることで、相手意識が生まれ、分かりやすいレポートになるよう、構成を工夫して書くことにつながると考えられる。そのことが課題を解決していく意欲にもつながると考えられる。
- レポートの下書きを交流し、お互いのよい点や改善点を具体的に指摘し合うことで、どこをどのように改善すればよいのかが分かり、レポートの完成を通して自信にもつながると考えられる。さらに、他の生徒の作品を読むことで、どのようにまとめ、どの順序で書けばよいのか自分のレポートの参考となり、自分の見聞を広げることにもなる。

本単元で育成する教科の本質

伝えたい事柄や自分の意見を明確にし、相手に伝わるように工夫して書くために、お互いに読み合い、調べたことのまとめ方や構成の仕方について助言し合う活動を取り入れることで、より明確な相手意識をもち、分かりやすい文章を書く力を身に付けることができる。

思考スキルを活用した学習過程の工夫

(1) 課題発見・課題設定

レポートを書くに当たり、ふさわしいテーマとはどんなものかしっかり検討させる。その際、どのような順序で構成すれば分かりやすくなるか、自分の考えをどのように表現するかをお互いに比較し合い、相互評価をさせる。また、レポートを書くことの価値を考えさせ、学習を通してどんな力が付けられるかという観点を提示し考えさせることで、進んで書こうとする意欲につなげたい。

思考スキルとしては「比較」「関係付け」、ツールとしては「ウェビングマップ」「ワークシート」を用い、各自の思考を明確にさせる。

(2) 情報収集、情報の整理・分析

レポートの下書きを読み合い、情報のまとめ方や整理・分析の仕方等を評価し合う。その際、考察の要件を基に、レポートの内容を比較させ、具体的にどこがよいか、どこを改善すればよいか、付箋に書いて交流させる。テーマと分かったことの関連や考察のまとめ方など、グループで読み合い、自分の下書きと比べさせることで、自分のレポートの改善につなげさせる。

思考スキルとしては「比較」「関係付け」、ツールとしては「付箋」を用いる。

(3) まとめ・創造・表現

茶道や和菓子について自分が決めたテーマを、事実と自分の考えを区別しながら、相手に分かりやすいレポートに仕上げさせる。また、調べて分かった事実をより分かりやすく伝えるために、図表や挿絵などを効果的に取り入れたり、構成を考えたりしながらレポートの完成を目指す。

(4) 実行(総合的な学習の時間)

自分が調べて分かったことなどを3・8交流の場で小学生に分かりやすく伝える。

(5) 振り返り

相手に分かりやすいレポートになったか、また、相手に分かりやすいレポートとはどんなレポートかを考えさせ、今後も相手意識をもちながら書くことを意識付ける。

(2) 評価について

○ 資質・能力に係るルーブリック評価（「自分を創る」マップによる ～小中9年間の学びの中で～）

領域・能力	1 (妨害・怠惰)	2 (規律)	3 (自立)	4 (貢献)	5 (幸福)
自己の生き方 価値観 倫理観	自分のまわりを否定的に見て、学ぼうとしない。 自分の快・不快を基準に生きている。 目の前の相手や社会が必要としていることを知ろうとしない、あるいは知っても行動に移さない。	ひと、もの、ことから学んでいく。 人生を誠実に生きようとする。 (夢を持つ) 目の前の相手や社会が必要としていることを知り、やらなければならないことをやる。	あらゆるひとから、あらゆるものから、あらゆることから学んでいく。 知的好奇心を持ち、人生を前向きに、誠実に生きようとする。 (夢を語る) 目の前の相手や社会が必要としていることを知り、やらなければならないことをやり遂げる。	あらゆるひとから、あらゆるものから、あらゆることから自分を高めるために学んでいく。 知的好奇心を絶やさず、人生を前向きに、誠実に生きようとする。 (志を抱く) 目の前の相手や社会が必要としていることを感じ取り、やらなければならないことをやり遂げる。 (使命感)	あらゆるひとから、あらゆるものから、あらゆることから素直な気持ちで豊かに学んでいく。 (柔軟性、自己理解・他者理解) 知的好奇心を絶やさず、人生を前向きに、誠実に、豊かに生きようとする。 (高い志に向かって) 目の前の相手や社会が必要としていることを感じ取り、人がやらないこと、やりたがらないことであってもやり遂げる。 (高い使命感)
A (自律的活動能力)	目標に対して、自分のこととして行動することができない。	目標をもち、自分のこととして意欲的に行動することができる。	自分で目標をもち、自分事として自ら考え自己決定し、行動することができる。	自分で目標を持ち、自分事として自ら考え、他者との関係において、適切に判断し行動することができる。	ひと・もの・こととの関係においてより高い目標を持ち、自分事として自ら考え、社会にとっての最善解や納得解を導き出すために判断し行動することができる。
D (コミュニケーション能力)	自分の意見を伝え、また他者の意見を受け入れながら、話し合ったり、活動したりすることができない。	自分の意見を伝え、また他者の意見を受け入れながら、話し合ったり、活動したりすることができる。	自分の意見をさまざまな表現方法で伝え、他者の意見を柔軟に受け入れながら、協働して発想したり、活動したりすることができる。	自分の意見をさまざまな表現方法で伝え、他者の意見を柔軟に受け入れながら、比較・検討し、協働して発想したり問題を解決したりすることができる。	自分の思いを適切に表現したり、他者の感情や思いを適切に受け止めたりすることができる、人間関係をつないでいける。 (コミュニケーション)



評価	S (十分満足できると判断される)	A (概ね満足できると判断される)	評価方法
A (自律的活動能力)	自分の言葉で表現したレポートについて、アドバイスをもらうことで、レポート完成への自信となり表現することに意欲をもつことができる。また、自分のアドバイスにより、相手がレポートの完成に役立つという実感を持ち、次への実践力に繋げることができる。	自分の言葉で表現したレポートについて、アドバイスをもらうことで、レポート完成への自信となり表現することに意欲をもつことができる。	行動観察・発言・ワークシート・振り返り
D (コミュニケーション能力)	お互いに話し合ったり、アドバイスをし合ったりすることで、自分の考えと他の生徒のアドバイスを比較・検討し、さらに、他の生徒のレポートを読むことで自分の考え方を広げたり深めたりすることに役立つ。	お互いに話し合ったり、アドバイスをし合ったりすることで、自分の考えと他の生徒のアドバイスを比較・検討し、自分の考えを広げることができる。	行動観察・発言・ワークシート・振り返り

○ 国語科の評価について

評価規準	評価方法
国語への関心・意欲・態度 茶道や和菓子について、自分でふさわしいテーマを立てて、レポートをまとめる学習に関心を持ち、意欲的に書こうとしている。	行動観察 振り返りによる自己評価・他者評価
書く能力 ・普段の生活やメディアなどで見聞きすることや興味あることからテーマを決め、調査して自分の考えをまとめている。 B (1) ア ・調べて分かった事実や自分の考えが明確に伝わるように、構成を工夫してレポートを書いている。 B (1) イ	行動観察 ワークシート 振り返りによる自己評価・他者評価 成果物
言語についての知識・理解・技能 相手や目的に応じて、レポートの形式や構成の展開に違いがあることを理解している。 伝国 (1) イ (オ)	ワークシート 成果物

(3) 指導計画 (全8時間+総合的な学習の時間)

次	主な活動内容	活用するスキル	評価	
			評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価規準 (評価方法)
単元前	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3・8交流で小学校3年生に茶道入門のきっかけ作りを行うことを知り、分かりやすく伝えることを意識する。 ○ 今まで学んできた茶道や和菓子について改めて興味をもち、茶道や和菓子についてより詳しく知りたいという意欲をもつ。 (総合的な学習の時間) 			A (自律的行動能力) (行動観察・振り返りの記述)
一 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査して報告するためにふさわしいテーマを考え、決定する。(2) ・ 調査のテーマがレポートを書く上でふさわしいか、自己評価や他者評価をした上で決定する。 	比較分類	調査して報告するレポートについて、ふさわしいテーマを設定しようとしている。【関】 (観察・ワークシート)	A (自律的行動能力) (行動観察・振り返りの記述)
二 (6)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報を集め、整理する。(2) ・ インターネットや図書室で自分のテーマへの理解を深めるための情報を多く集める。 ・ 複数の情報 (インターネットや図書) に当たり、比較するなど、なるべく客観的で正確な情報を収集するようにする。 	比較分類	テーマについて様々な情報を集め、整理するとともに、自分の考えをメモしている。【書】 (観察・ワークシート)	
	<ul style="list-style-type: none"> ○ レポートを書く。(2) ・ 調べて分かったことを伝えるため、構成を考え、図表や挿し絵などを活用するなど、読み手に分かりやすいレポートを書く。 	比較 まとめる 関係付け	調査結果をまとまりごとに分け、示す順序を考えたりしてレポートを書いている。【書】 (ワークシート・レポート) 目的に応じたレポートの形式や、構成の展開に違いがあることがわかる。【伝国】 (ワークシート・レポート)	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポートの考察部分の下書きをお互いに交流し、アドバイスし合うことで事実や事柄を明確にして文章の構成を工夫し、より良い考察文にする。(1)【本時】 	関係付け	事実と自分の考えを区別して整理し、自分の考えが明確に伝わるように構成を工夫している。【書】 (観察・ワークシート)	D (コミュニケーション能力) (話し合い活動・振り返りの記述)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ レポートを完成させる。(1) ・ もらったアドバイスを基にレポートを完成させる。 		もらったアドバイスを参考にして、考察文を改善しながらレポートを完成させようとする。【関】 (ワークシート・レポート)	
単元後	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶道を体験する。(ゲストティーチャー) ○ 調べたことの中から、小学生に伝えたいことを絞り、どのように伝えるのか考える。 ○ 小学生 (3年生) に茶道や和菓子について説明する。 ・ 8年生の作った和菓子とお茶をふるまう。 (総合的な学習の時間) 			A (自律的行動能力) (行動観察・振り返りの記述)

■本時の展開

○ 本時の目標

考察の下書きをお互いに読み合い、書かれた助言によって、自分の考えが明確に伝わるように構成を工夫することができる。 書くこと B (1) イ

○ルーブリック評価

評価	S	A	B (Aに達していない) と判断される生徒への手立て
期待する姿	下書きした考察文をお互いに読み合い、アドバイスしてもらったことや、ほかの生徒のレポートから気付いたことを基に、自分の考察文の改善点に気づき、自分のレポートに生かしている。	下書きした考察文をお互いに読み合い、アドバイスしてもらうことで、自分の考察文の改善点に気づき、自分のレポートに生かしている。	調べたことを根拠として書き入れたり、語尾を直したりすることで、考察文になるということを、前時の表から思い出させる。

○ 学習の展開

	学 習 活 動	◇指導上の留意点 ◆Bと判断される生徒に対する手だて	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ	○前時に書いた考察の下書きを確認する。 ○本時のめあてを知る。	◇相手に伝えるための分かりやすいレポートについて考えさせる。	
	考察の下書きを読み合い、よさや改善点を見付け、考察文として適切な文章にする。		
考える・深める	○考察と感想の違いを確認する。 ○考察の下書きを交流し、アドバイスをし合う。 ○自分に書かれたアドバイスを基に推敲する。	◇考察と感想の違いを再度確認する。 (既習事項のカード) ◆根拠の有無、語尾の違いなどの視点を再確認する。 ◇考察の下書きを交流し、よいと思うところ、改善した方がよいところに、付箋を貼らせる。 ◇調べた資料や、レポート(テーマ設定、調査方法や調査結果まで書いているもの)も下書きと一緒に渡してアドバイスをもらう。 ◇どのような視点でアドバイスをすればよいか明確にしておく。 ・根拠(調べて分かったこと)を基にした考察になっているか。 ・語尾が意見の書き方に沿っているか。 ・相手に明確に伝わるような構成になっているか。 【使う思考スキル:関係付け 思考ツール:付箋】 ◇お互いに書かれた付箋について、質問したり、さらに詳しく聞いたりするなど時間を確保する。 ◇自分に書かれた付箋を見て、改善したほうがよいところや、他の人のレポートを読んで自分のレポートにも生かせるところを確認させる。 ◆どのように改善すればよいか分からない生徒には、調べたことを基に考える視点を与える。 例・調べたことと似たことが起きるか予想する。 ・周りの人の反応を予想する。等 ◇改善したいところを赤ペンで加筆させ、レポートの清書に役立たせる。 ◇班でお互いに分からないところを相談しながら班員が改善できるように班長に確認させる。	・下書きをお互いに読み合い、助言し合うことで、自分の考えが明確に伝わるよう、自分の構成に生かしている。 (行動観察・ワークシートの記述)
	<p>考察文例</p> <p>和菓子が季節によって形や色が変わるのは、日本人の季節感が基になっていると考えられる。それは日本では季節の移り変わりや行事を大事にしてきたからだ予想される。</p>		

まとめる	○まとめ及び振り返りをす る。		
	事実をもとに内容を整理し，班の人のアドバイスから，語尾を「～と思う」から，「～と予想される」という言葉につながるよう内容と構成を工夫すると，考察文にすることができた。		